

2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立唐桑小学校

採択活動名

未来に生きる人材育成 ―海洋教育を通して―

実施単元

単元名	学年	教科
1. いきものとなかよし	1 年	生活
2. 生きものなかよし大きくせん	2 年	生活
3. ワカメのひみつを探ろう	3 年	総合
4. 唐桑の宝を探ろう	3 年	総合
5. カキのひみつを探ろう	4 年	総合
6. 唐桑の海の豊かさを探ろう	4 年	総合
7. カキが育つ環境を考えよう	5 年	総合
8. 世界につながる海の「今」を探ろう	5 年	総合
9. 豊かな海を発信しよう	6 年	総合
10. 自分たちの未来を考えよう	6 年	総合
11. リアスサミットで発表しよう	全学年	生活・総合

取り組みの概要

本校は、「地域の豊かな体験学習と多様な交流を通し、豊かな心を持ち、ふるさと唐桑を愛する子どもの育成」をテーマに、海をフィールドとした体験活動や探究学習を推進している。全児童が海と関わり、地域の海の豊かさを実感し、そこからふるさとを守るためにできることを実践していく力を養うことを目指している。今年度は、新型コロナウイルスの対策を講じながら可能な限り、児童の希望や意欲に添うように学習を進めた。また、海洋教育特例校として申請中の特別な教育課程「海と生きる探究活動」の実施に向け、どのような学習が可能なのかを模索しながら探究学習を進めてきた。

① 地域の豊かな自然を実感する体験活動

1・2年生は、唐桑幼稚園児と一緒に近くの浜で生きものやシーグラスなどを探す活動を行い、波の音、潮の匂い、風景などについて五感を通して感じる事ができた。

2年生は、サケの採卵・受精を見学し、飼育する活動を通して、サケが育つ環境に興味を持つ事ができた。3月には飼育したサケを1年生に引き継ぎ、4月に海へ放流し、4年後の学習へとつないでいく。



3年生は、地元で養殖されているワカメの種付けやメカブ削ぎ体験などを通し、ワカメ養殖の過程や生産者の苦労などについて感じ取ることができた。また、巨釜半造について調べ、地域の宝として保存したいという思いを持つことができた。



4年生は、カキ養殖体験を通してカキの成長を実感し、おいしいカキを育む海の栄養に関心を持つことができた。また、流通や食としての素材の豊かさを実感することができた。

5年生は、カキ養殖体験作業を行ったり、木造船に乗って九九鳴き浜を訪ねたり、6年生と一緒に舞根川の生きもの調査を行ったりしたことで、森川海の栄養のつながりや、海の環境問題との関連に関心を持つことができた。



6年生は、昨年度までの体験や課題別探究学習を通して調べたことを基に、地域や自己の生活と関連付けて学びを深めた。地域にある舞根川の護岸工事のやり直しの意義を調査して自然環境を守ることの大切さに気付いたり、海洋ゴミの状況を調査して「自分たちが何とかしなければ」という気持ちを高めたりすることができた。

② 他者への発信

全学年児童が①のような活動を通して学んだことを様々な方法でまとめ、「リアスサミット in 唐桑」で参観者に伝えた。伝える内容・方法などを工夫し準備を進めることで、児童の主体的・協働的に学ぶ姿が見られた。また、学んだことや気付いたことを自分の言葉で自信を持って発表することが楽しいと実感できた児童も多く、今後の学ぶ意欲につながった。リアスサミットを通じて、児童は、自分たちのふるさとや自分たちの未来をどのようにしていきたいのかについて考えることができ、今後の生活に生かし、他者へも働きかけて実践することを大切にしようとする気持ちを高めた。さらに、学習を支援してくださった方々は、児童の課題解決に取り組む姿に刺激を受け、地域のよさの再確認となった。



また、月立小学校の高学年児童と共に、「話そう 広げよう 未来への思い」をテーマに意見交流を行ったことにより、山間部と海辺の学校の児童が互いのつながりに気付き、互いを尊重し合おうとする態度が見られた。

さらに、「海洋教育こどもサミット」での探究学習の成果発表や、福岡県大牟田市立上内小学校とのオンライン交流会でも、自分たちの探究学習の内容や考えを広く発信することができたことは大きな成果である。